

教宣 せぶん

情報交換を通して得た実話

風もない春の超ポカポカ陽気のなか、「全国一斉行動日」の3月22日、当地区でもポスティングピラ行動をおこないました。今回は、郊外の住宅密集地を自動車で移動しながらポスティングしてきた前回までとやり方を変え、駅を基点に中心市街地、およその方角と帰着時間を決め、目標枚数を持ちながらポスティングしました。

商店や商業ビル、事務所、マンション、アパートなど、さまざまな建物が立ち並ぶ駅周辺の繁華街は、天候も良かったせいか人通りも多く活気にあふれており、寒風吹きすさび、人通りがほとんどないなかで行ってきた年末からのポスティングとは、ひと味も、ふた味も違うものになりました。大型の高層マンションでは、管理人の方に「ポスティングを行いたい」と話すと、断られることなく、申し入れたすべてのマンションで許可されました。敷居が高そうに見えたエレガントなマンションも、堂々と趣旨を話せば、ポスティングにはとても「効率の良い建造物」だということがわかりました。また、歩き回っていると見覚えのある建物にぶつかり、先日回った高裁苑の「団体署名」をお願いした労組の事務所だと気がついたり、「このマンションにもこの会社の人が入居しているよ」と管理人さんに言われたり、刺激ある新鮮なポスティングでした。毎回参加いただいている先輩と二人で、1,200枚を撒きました。

先輩と昼食をとり、いつものように情報交換を行いました。先輩には1カ月に1回行なうこのポスティングを「情報交換ができる貴重な場」として位置づけていただいております。来月以降も「ぜひ声をかけてくれ」と言ってもらいました。現在、契約係社員時代のお客さんとの信頼関係を基に、定年退職後も他社の代理店をしている先輩ですが、厚生年金と合わせ十分な収入があると言います。前回の地位確認訴訟で、私たちは、裁判長から「内勤従業員になることは、キャリアを否定されること以外にどんな不利益があるのか、明らかにするように」と言われたわけですが、内勤社員にされることは、定年退職後、嘱託社員や代理店として収入を上げることができる道を閉ざされることであり、そこには大きな経済的損失が存在します。また、先輩諸氏のなかには、お子さんと一緒に募集業務にあたっている方もいます。内勤社員の道を歩まされることは、親子二代で同じ仕事ができるという可能性、選択肢も奪われることを意味します。

こうした情報交換を通して得た「実話」や「実例」も主張しながら、私たちは自らの明日を切り拓く地位確認訴訟を、さらに勇ましくたたかっていきます。